

全国から心の支え

横浜市内で二トや引きこもり、不登校で悩む若者の自立就労支援に取り組む「250にこまる食堂」は、全国から食材の寄付が寄せられている。会員に250円で温かい食事を提供する食堂にとって、食材価格は貴重。働きながら生き抜こうとする若者たちには、支援者の思いが心の支えとなっている。

「にこまる食堂」の仕込みを手掛けている市立みなと総合高校(中区山下町)内の食堂「アロハキッチン」(以下、アロハ)は、コメ300kgが届いた。富山県立山町の農家加藤春夫さん(55)が昨年収穫したコシヒカリだ。横浜市南区出身で4月から同町で暮らす小島路生さん(35)が仲介した。小島さんは同町の地域活性化を担う「地域おこし協力隊」の隊員。寄付がきっかけとなり「横浜の若者たちが訪れ

横浜「250にこまる食堂」へ

若者支援の食材届く

て農業体験などの交流が始まれば」と期待する。

「にこまる食堂」は若者の自立を支援するK2インナーナショナル(横浜市磯子区)が昨年6月からプロジェクトチームを立ち上げて運営。お好み焼き店やカフェなど市内に5店舗を展開しながら、ランチを会員250円、非会員300円で販売。コメは1日で多くて200合を提供している。

プロジェクトリーダーの岩本真実さん(39)によると、農家からの規格外の野菜をはじめ、家庭菜園で収穫されたばかりの野菜が応援メッセージとともに届けられるという。「お中元など、家庭で食べきれない食材で若者たちを支援してほしい」と呼び掛けている。問い合わせは、K2インナーナショナル☎045(752)5066。

(三木 崇)



富山県から届いたコシヒカリを米びつに入れる岩本さん(左端)ら
|| 横浜市立みなと総合高校内の食堂「アロハキッチン」